

別紙の取り扱い説明書に記入されている注意事項を必ずお読み下さい。

マジカルアートシート ボンネット貼り方手順一例

※型取りシートは紙筒の中に入っております。

作業を始める前に シートを貼る場所の汚れや油分等をキレイに拭き取って下さい。ゴミや汚れが残っていると気泡が出来、剥がれの原因となります。



1 脱脂を行います。(最初にホコリ・汚れ等を洗車し取り除いてから脱脂して下さい。)裏面の巻き込む部分も充分に脱脂して下さい。



2 付属の型取りシートをのせます。マスキングテープ等で動かない様固定します。



3 油性マジック等でボンネットの型取りを行います。



4 型取り後少し外側をカットし、マジカルアートシートの上ののせます。型取りしたラインより約5cm程外側をカットして下さい。



5 ボンネットの角の部分にマスキングテープで目印を付けて下さい。



6 ボンネットの表面に溶液(水500cc:中性洗剤15~20滴を混ぜた水)を吹きつけます。全体的にしっかり吹きつけて下さい。マジカルアートシートの剥離紙を剥し、粘着面にも吹きつけます。



7 マスキングテープを目印にし、位置を微調節しながらマジカルアートシートをのせます。



8 貼り付け直後は画像のようにシワや気泡が入ってしまいますので、これをヘラでキレイに馴染ませていきます。



9 施工面の中心から外側に向かってヘラを用い加圧しながら溶液を押しだし気泡が入らないようにしながら、ヘラで密着させていきます。



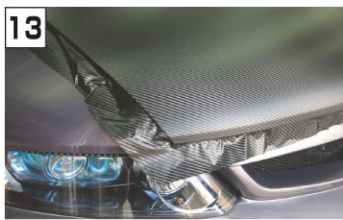
10 細かいシワや気泡ができた場合は、一旦貼りつけた箇所を剥しもう一度慎重に貼り付けていきます。



11 マジカルアートシートはドライヤーでかなり伸縮いたしますので巻き込み場合はドライヤーでの施工をお勧めいたします。



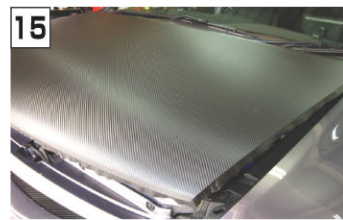
12 これで表面の仮施工は完了です。もう一度表面に気泡等がないかを確認してください。次に巻き込みの施工を始めます。



13 角の部分はこのように馴染ませておきます。



14 マジカルアートシートの余分な部分をカットします。この際巻き込み幅が必要になりますので必ず残すようにカットして下さい。(10~15mm)



15 巻き込み幅を残しカットし、次は実際に巻き込んでいきます。



16 角の部分につきましては画像のように切れ込みを入れて巻き込み様にして下さい。



17 あくまでも画像は参考になります。形状によっては切れ込みを変えていく必要があります。



18 巻き込んでいきます。その際も気泡が入らないよう密着させていきます。



19 ドライヤーを使うとキレイに馴染みますのでヘラでしっかりと密着させて下さい。



20 ボンネットに純正のゴムが付いている場合はその下へ巻き込む様に施工して下さい。施工に干渉する場合は部品の取り外しをお勧めいたします。



21 施工に関してお車にボンネットがついたままでの施工が困難な場合はボンネットをお取り外して施工をしていただく方法もございます。



22 ボンネットを施行する際に余ったマジカルアートシートを用いて、テープ状(幅10~15mm)にカットします。巻き込み部分のシートが剥がれないようにするため、用意したテープを上から貼付けます。



23 上から貼付けたテープをドライヤーで温めてヘラを用いてしっかりと密着させて下さい。



24 完成です。

外装パーツ貼り方手順

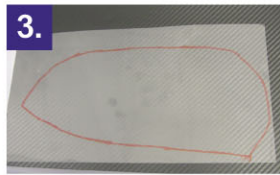
作業を始める前に シートを貼る場所の汚れや油分等をキレイに拭き取って下さい。ゴミや汚れが残っていると気泡が出来、剥がれの原因となります。



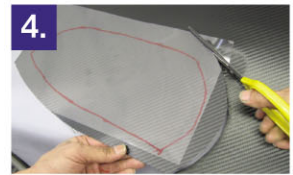
1. はじめに、貼付けたいパーツを取り外し布等で汚れを拭き取って下さい。



2. 同封の型取り用透明シートを、型取りを行う場所にテープ等で貼付け、油性マジックで型取りを行って下さい。



3. 型取りした透明シートを、本商品へテープ等で貼付けて下さい。



4. 型取りを行ったラインより大きめにハサミ等で丁寧にカットします。カットが出来ましたら透明シートを剥がして下さい。



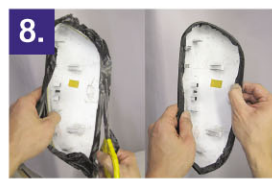
5. 本商品の剥離紙を剥がし、位置を確認しながら貼付けていきます。(貼付け面にきりふき等を使用し、水100:石鹸1の割合で混ぜた物を吹き付けます。こうするとすぐに接着せず、位置決めが自由にでき、気泡も取りやすくなります。)



6. ドライヤーで温めながら、気泡が入らないようにゴムヘラ等を使用し丁寧に貼付けていきます。



7. 角などのアールのきつい部分はドライヤーで温めながら、ゆっくりと伸ばすように貼付けて下さい。



8. 10ミリほど残し、余分な部分をカットして下さい。次に残した部分を内側へ巻き込んでいきます。



9. 完成です。

内装パーツ貼り方手順

作業を始める前に シートを貼る場所の汚れや油分等をキレイに拭き取って下さい。ゴミや汚れが残っていると気泡が出来、剥がれの原因となります。



1. はじめに、貼付けたいパーツを取り外し布等で汚れを拭き取って下さい。



2. 同封の型取り用透明シートを、型取りを行う場所にテープ等で貼付け、油性マジックで型取りを行って下さい。



4. 取りした透明シートを、本商品へテープ等で貼付けて下さい。



5. 型取りを行ったラインより大きめにハサミ等で丁寧にカットします。カットが出来ましたら透明シートを剥がして下さい。



6. 貼付け面にきりふき等を使用し、水100:石鹸1の割合で混ぜた物を吹き付けます。こうするとすぐに接着せず、位置決めが自由にでき、気泡も取りやすくなります。

※内装パーツなど電気系統の部品は必ず取り外して下さい。



7. 次に本商品の剥離紙を剥がします。貼る位置を確認し気泡やゴミが入らないように丁寧に貼付けていきます。隙間などの貼りにくい場所はヘラの角などを使用し貼付けて下さい。



8. 角などのアールのきつい部分はドライヤー等を使用し温めながら、ゆっくりと伸ばすように貼付けて下さい。余った部分は内側へ巻込んで下さい。



9. 完成です。

特徴

- 本商品はカーボンリアルに再現し内装、外装どちらでも対応できるドレスアップシートです。
- 本商品は伸びやすく貼りやすいです。
- 本商品は剥がしてもノリあとが残りません。

用途

- 自動車内外装パーツ ●携帯電話
- 家庭用小物 ●その他

ご注意下さい。
 ・貼付けたいパーツの寸法を図り、本体サイズと合うか確認して下さい。
 ・本商品は皮革や布等への接着には適しておりませんので、ご注意下さい。
 ・アールがきつい部分や複雑な形状へは対応出来ない場合があります。

装着方法

- 取り外しが可能なパーツは車体から取り外し型取りして下さい。
- 貼りたいパーツに生地等が貼ってある場合は作業を行う前に剥がして下さい。
- 本商品を貼付けるパーツより外側3cm程、余裕を持って大きめにカットして下さい。
- 貼り付けるパーツの表面の汚れ、ホコリ等を拭き取り脱脂して下さい。
- 本商品の剥離紙を剥がし、気泡が入らぬよう慎重に貼り付けて下さい。アールがきつい部分はドライヤーなどで暖めながら貼付けて下さい。その際、暖め過ぎないようにご注意下さい。表面が溶けたり極端に粘着が弱くなってしまう可能性があります。
- 貼付けたシートを押さえながら、しっかり密着させ、はみ出たシートをキレイに折り込んでいきます。
- 折り込み部分が長い箇所はハサミやカッターでカットして下さい。後はパーツを元通りに取り付けて完成です。

お願い

別紙の取り扱い説明書に記載されている注意事項を必ずお読み下さい。

マジカルアートシート使用上の注意 (必ずお読み下さい。)

- ・本製品は施工後、接着剤が定着するまで24時間前後かかりますのでその間洗車等の水の使用はおやめ下さい。浮きや剥がれの原因となります。
- ・本製品を剥がす際には、パーツ本体に施されておりました塗装やシール等と一緒に剥がれる可能性があります。
※特に再塗装パーツについてはその可能性が高くなります。
- ・本製品を剥がす場合、ドライヤー等で熱を加えながら、慎重に剥がしてください。ドライヤー等を使う場合は指先等を火傷しないよう充分にご注意してください。
※「剥がし始め」が最も本体表面に負担をかけてしまいます。全て剥がし終わるまで動作を止めないでください。
- ・本製品を剥がした後、本体塗装と剥がした部分に色の差が生じる場合があります。
- ・装着するパーツの裏へは充分に巻込んで貼付けてください。不十分な巻込みは浮きや剥がれの原因となります。
- ・本製品を剥がした後、接着糊が貼付け面に残る場合があります。残った場合は材質に合った拭き取り剤で拭き取ってください。
- ・耐候性:3年
当社独自の検査法による実測値であり保証値ではありません。
※ご使用方法や環境によって耐候年数に差があります事をあらかじめ、ご了承ください。
- ・本製品は施工後、長期間経つと耐候性の点から変色、退色、ヒビワレ、ハガレ等が生じる場合があります。
- ・本製品を使用し発生したトラブル、事故等につきましては一切の責任を負いかねますので予めご了承ください。
- ・本製品の仕様は改良・改善の為、予告なく変更する場合がありますので予めご了承ください。

貼付け作業の適温は15～25℃

■冬期 10℃以下の場合

接着力が低下するので、基材をドライヤーなどで適温に暖めてから十分に圧着してください。

■夏期 30℃以上の場合

温度が高いと接着力が増し、作業しづらい場合があります。朝夕の気温の低い時、または日陰などで作業してください。